

5 褥瘡発生率

褥瘡（床ずれ）は予防的ケアで防止することが重要です。ひとたび褥瘡が発生すると治りにくく、在院日数の延長や患者への苦痛を伴うことが多いため、患者へ大きな負担となります。褥瘡が発生する危険因子を把握し、予防対策を行うことが重要で、本指標はその質を評価する指標となります。看護ケアの質評価の重要な指標の1つとなっています。

褥瘡の深さについては、日本褥瘡学会のDESIGN-R（2008年改訂版褥瘡経過評価用）とInternational NPUAP-EPUAP Pressure Ulcer Guidelines を用いています。

<指標定義>

分子	d2（真皮までの損傷）以上の院内新規褥瘡発生患者数
分母	同日入退院患者または褥瘡持込患者または調査月間以前の院内新規褥瘡発生患者を除く入院患者延べ数（人日）
分母除外	<ul style="list-style-type: none"> ・同日入退院の患者 ・入院時刻から24時間以内にDESIGN-R®（2008年改訂版褥瘡経過評価用）Depth（深さ）のd1,d2,D3,D4,D5,DUのいずれかの記録がある患者 ・同一入院期間中の調査月間以前に院内新規褥瘡があった患者
調査期間	1ヶ月毎

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分子	8	3	9	2	10	7	3	5	2	8	9	9
分母	11,495	11,691	10,614	11,636	11,511	10,894	11,770	10,793	11,259	11,624	10,918	11,003
割合	0.07%	0.03%	0.08%	0.02%	0.09%	0.06%	0.03%	0.05%	0.02%	0.07%	0.08%	0.08%
全国平均	0.10%	0.11%	0.12%	0.09%	0.12%	0.12%	0.11%	0.11%	0.12%	0.13%	0.12%	0.12%

